

野生動物との共存 猿害から探る共存への道

ニホンザルやニホンジカ、イノシシなどによる農林産物への被害が全国的に深刻化しています。年々増加する捕獲数に反して、被害額は増大していく一方です。このような状況のなか、人間と野生動物が共存できる社会はつくれるのでしょうか？

ニホンザルってどんな動物？



サル目(霊長目)オナガザル科

体長 オス:53~60センチ メス:47~55センチ

日本だけにすむサルで寿命は20歳程度。顔とお尻は赤くて、尻尾が短いのが特徴的です。



今回は「人間とサルの共存」を目指す生き生きとした地域社会づくりを目的とし、活動しているNPO法人サルどこネットにお話を伺いました。

サルどこネットの活動を通して、人間と野生動物が共存を図っていくために、わたしたちは野生動物とどのように関わっていくべきかを考えていきます。

サルどこネットのはじまり

「サルどこネット」は三重県の獣害対策に関わる事業を引き継ぐ形で平成18年にNPO法人として設立されました。

三重県にはおよそ120のニホンザルの群れが存在すると推測されており、ひとつの群れには数十頭から100頭以上のサルがいます。

当時、三重県では獣害対策の事業の実施にあたり、各群れのなかの1~2頭を捕獲して電波発信器を装着していきました。装着したのは普段、群れのなかで行動しているメスサルです。群れを離れることがあるオスには装着しません。

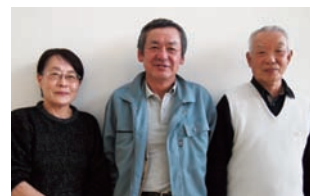
平成15年までに県内のほとんどの群れに装着し、各群れの分布と行動域の調査が行われました。

これが現在のサルどこネットが提供する「サル位置情報システム」の基礎になっています。システム化することによって、どこに出没するかわからない野生動物の行動情報を共有することが可能になりました。

サルどこネットではこの情報をたくさんの人と共有し、各地域での猿害対策に役立てようという目的で「サル位置情報」の提供を行っています。

お話を伺った人

NPO法人 サルどこネット



代表
あかし たけみ
明石 武美さん

理事
やまこし ゆきこ
山腰 山紀子さん

あだち いさむ
右 足立 勇さん

サルどこネットでは三重県内を中心に主にニホンザルの位置情報の提供や猿害に困っている地域において、より効果的な対策方法についての講習会やサルの追い払いの指導などを行っています。